



気づき、考え、表現できる子に

校長 関原 秀明

イソップ物語(寓話)に「三人のレンガ積み職人」というお話があります。

旅人がある町を通りかかりました。汗を流してレンガを積んでいる職人に出会いました。旅人がその職人に、「何をしていますのですか？」と尋ねました。男は面倒くさそうに、「ごらんの通りさ。親方の命令で、レンガを積んでいるんだよ」とぶっきらぼうに答えました。

旅人が先に歩いていくと、二人目の男に会いました。「何をしていますのですか？」と旅人は同じように尋ねました。二人目の男は、「レンガを1個積むと10セントもらえるのさ。生活をするために、レンガを積んで壁を作っているんだよ」と答えました。

旅人がさらに先へ歩いて行くと、三人目の男に出会いました。旅人は、「何をしていますのですか？」と尋ねました。「私はレンガを積んで、ここに大聖堂を作っているのです。大聖堂で多くの人が祝福を受け、多くの人が救われるのです」と、三人目の男は目を輝かせながら答えました。

一人目や二人目の男の答えのように、上司の命令や報酬も大切な働く理由です。しかし、それだけでは、「やらされる仕事」と感じたり、働く意欲やもっと価値ある仕事にしたいという工夫も生まれにくかったりするように思います。それに対して三人目の男の答えには、仕事をする目的意識や働く喜び、もっと言えば、生きる喜びが感じられます。

子供たちは学校で、授業、学校行事、掃除等に一生懸命取り組んでいます。しかし、時には「やらされている」感が見え隠れしたり、興味が長続きしなかったりすることもあります。これには、教える私たちにも考えさせられることがあります。「教え込むことに重点を置いていなかったか」「考え、表現させる機会を十分に設けていたか」など。子供たちには、誰かに指示されたり、叱られたりするからではなく、自分でよりよい行動を考え、実行できる力を身に付けてほしいと思います。



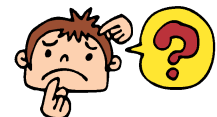
今年度の本校の重点目標（力を入れて目指したいこと）を次のように設定しました。

**気づき、考え、表現できる子供の育成**

これには目指す子供像を3つ描いており、半期ごとに行うアンケートでの数値目標を次のように決め、その実現に向け取り組むことにしました。

- 考える子
  - ・ 目当てをもって授業や家庭学習に取り組んでいる。…90%以上
  - ・ 自分の考えを発表したり、ノートに書いたりしている。…90%以上
- 思いやりのある子
  - ・ 友達のよさを見付けて伝えている。…90%以上
  - ・ 「あったか言葉」を使っている。…90%以上
- 健やかな子
  - ・ 目当てをもって運動や体育の授業に取り組んでいる。…90%以上      90%
  - ・ 自分の食習慣や睡眠についてよりよいものにしようと努めている。…以上

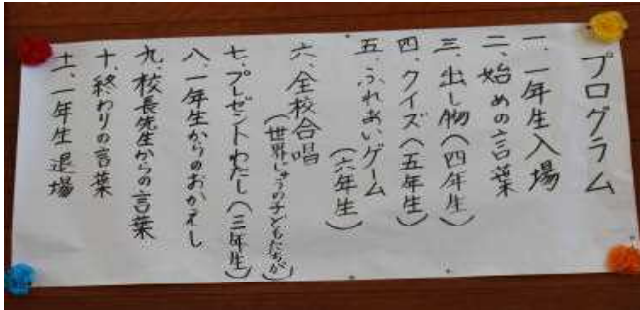
三人目の男がもつ目的意識や価値観は、教えて身に付くものではないと思います。疑問をもち、自ら考え、他と関わりながら繰り返し考え、判断する場を通してこそ養われていくものだと考えています。



# 学校生活の様子から

○ 1年生の入学を祝う会を開きました。(5/2)

「1年生がこれからの学校生活にわくわくできるような集会にしよう」を目当てに、2～6年生が工夫を凝らした出し物等をしました。



(ホームページに各学年の出し物の様子を載せております。そちらもご覧ください。)

○ 小中合同運動会(5月20日開催)に向けて練習を進めています。



入場行進の練習をしています。↑

小中合同結団式の様子(5/12)です。



